

## 平成23年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

## 1. 共同利用種目 (該当種目にチェック)

- 特定共同研究(A)     特定共同研究(B)     特定共同研究(C)     一般共同研究  
 地震・火山噴火予知研究     施設・実験装置・観測機器等の利用  
 データ・資料等の利用     研究集会

2. 課題番号または共同利用コード 2011 - W - 01

## 3. プロジェクト名、研究課題、集会名、または利用施設・装置・機器・データ等の名称

和文: 海中工学と海底ケーブルの科学目的利用に関する国際ワークショップ  
 英文: UT11 & SSC11

4. 研究代表者所属・氏名 生産技術研究所・浦 環  
(地震研究所担当教員名) 歌田久司

## 5. 利用者・参加者の詳細 (研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	利用・参加内容または 施設,装置,機器,データ	利用・参加期間	日数	旅費 支給
John Delaney	U. Washington, 教授	参加(ハワイ/kona)	H23年9月18日～ 23日	6日間	○
Alan Chave	WoodsHole 研究所、研究員	参加(ハワイ/kona)	H23年9月18日～ 23日	6日間	○

## 6. 研究内容 (コンマ区切りで3つ以上のキーワードおよび400字程度の成果概要を記入)

キーワード: 海底観測技術、海中工学、深海探査機、海底ケーブル観測

地震研究所が行なっている研究活動の中で、海域における観測研究と開発研究は所を代表する項目の一つとなっており、長年にわたる研究によって多くの成果をあげて国際的にも高い評価を得ている。しかし、海底観測を長期的に実施するにあたっては、音響技術・海底ケーブル技術・耐圧容器技術などをはじめとするさまざまな技術的な基盤の発展が陸上観測にもまして重要となる。また、技術の高度化をはかるには必然的に国際的な交流と情報交換が不可欠である。本研究集会は、これら海域における観測に関連するサイエンスを行なう研究者と、最先端の技術開発に取り組む技術者による発表が行なわれ、活発な議論を通じて極めて意義深い交流の場となった。

7. 研究実績報告 (公表された成果のリスト\*<sup>1</sup>または2000～3000字の報告書)

(\*<sup>1</sup>論文タイトル、雑誌・学会・セミナー等の名称、謝辞への記載の有無、ポイント数、電子ファイル添付のこと)

プロシーディングス (CD版) を提出